

第2号様式（第3関係）

第8回豊山町中学校施設整備基本構想会議議事録

1 開催日時 令和4年6月29日（水） 午後4時00分～

2 開催場所 豊山町役場 3階 会議室3・4

3 出席者

名古屋市立大学芸術工学研究科 教授	鈴木 賢 一	（会長）
愛知工業大学工学部 教授	鈴木 森 晶	（副会長）
中部大学人間力創成総合教育センター 教授	武者 一 弘	
社会福祉法人豊山町社会福祉協議会 会長	池 山 和 徳	
豊山町議会 議長	水 野 晃	
豊山中学校PTA 顧問	小 川 晃 永	

事務局

教育長	北 川 昌 宏
事務局長	安 藤 憲 司
教育参事	小 出 泰 司
事務局学校教育課長	井 戸 茂 治
事務局学校教育課学校教育グループ長	菊 地 智 行
事務局学校教育課学校教育グループ主任	山 永 五 香
産業建設部建設課参事	大 見 明 弘
産業建設部建設課土木・農政グループ主事	上 田 卓

阪急コンストラクション・マネジメント株式会社

名古屋事務所 営業部部長兼名古屋事務所副所長	杉 田 昌 彦
東京本店 CM部 チーフマネジャー	佐 藤 学
名古屋事務所 CM部 チーフマネジャー	長 谷 川 裕 実
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	
政策研究事業本部 名古屋本部 主任研究員	岩 田 雄 三

4 欠席者

愛知教育大学教育学部 教授
愛知学泉大学家政学部 教授
豊山中学校 校長

風岡 治
前田 治
篠田 弘男

5 傍聴者

山本 亮介
作野 桂子
古谷 博子
岡島 政信
坪井 孝仁

6 議題

- (1) 町民アンケート結果について
- (2) 目指すべき中学校のあり方について－最終まとめ案－
- (3) その他

7 会議資料

次第

目指すべき中学校のあり方 最終まとめ案

8 議事内容

(1) 連絡事項等

教育長：本日は、7回までにご指摘いただいた事項を事務局で検討し修正した最終案に対してご意見を伺いたい。今回の会議をもって、目指すべき中学校のあり方の最終まとめにしたいと考えている。

(2) 議題

【(1) 町民アンケート結果について】

・参考資料2 町民アンケート概要及びアンケート結果における修正内容について事務局説明。

会長：前回集計が不十分だった部分を修正している。2000件のアンケートを配布したうち、3割の方が回答しているが、修正内容含め、皆様からの意見をお願いします。

委員：追加、修正した内容については理解した。アンケート結果で修正したい箇所があり、42頁以降のグラフが今回修正したその他意見の回答件数と整合していないため、グラフの修正をお願いしたい。

副会長：問9の意見はどのような順番で並んでいるのか説明いただきたい。意見が多い順なのか、カテゴリーに分かれているのか。

事務局：カテゴリーごとに回答をまとめているが紙面では表示していない。また、意見の数での分類はしておらず、順不同で記載している。

副会長：カテゴリーでの分類、かつ意見の数が多いものから順に並べたほうが意見の内容がわかりやすいと考える。

委員：前回構想会議で質問した建替えに関する意見の学校区内訳の回答をいただいたが、問9以外の回答の中で同じように建設地に関する回答はなかったか。

事務局：今回のアンケートの主旨として、目指すべき中学校のあり方を問う内容となっており、建設候補地をどこにするかを決定するためのアンケートではない。アンケートは無作為抽出した2000名の町民に対して実施し、そのうち673名が回答しているが、建設候補地に関する意見は合計24名の方の回答となっている。現段階では意見として承っておきたいと考えており、最終まとめ案では、建設地候補地の比較を行っているが、どこに改築すべきかについては目指すべき中学校のあり方の最終まとめを踏まえ、今後判断したいと考えている。

会長：アンケートについては、副会長からご指摘いただいたグラフの修正及び、問9意見のカテゴリー分け、意見の数での並べ替えを行うこととする。

【（2）目指すべき中学校のあり方について－最終まとめ案－】

・「目指すべき中学校のあり方について－最終まとめ案－」について、前回の構想会議での協議内容をふまえて修正した項目を中心に事務局説明。

会長：前回構想会議にて委員の皆様から頂戴した指摘事項を反映したが、改めて意見があれば伺いたい。また、挿絵について、出典元の「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」は文部科学省の部会であるため、文部科学省の記載を入れてほしい。

副会長：25頁比較表の候補地1の校舎配置で、既存体育館が大規模改修となっており、他の敷地と前提が異なっている。この内容は決定事項となっているのか。

事務局：平成31年3月の長寿命化計画において、豊山中学校の体育館棟については長寿命化を図る計画としている。そのため、現地立替の場合は既存体育館棟を利用する計画としている。

会長：長寿命化計画による旨記載してほしい。

委員：前回構想会議で指摘した通信環境の内容について、具体的な記載となったが、文末が「望まれる」とされており、まだ表現が弱いように感じる。この部分は重要な内容のため、「求められる」や「必要である」といった表現が良いかと考える。もう1点、比較表で候補地2を具体的に想定し記載したことでイメージが湧いてきた。校舎と駐車場など構想会議での施設規模が計画できると聞いて安心した。

事務局：確かに現状の文末表現では印象が弱いと考える。通信環境は日々進歩しており、最優先項目であると考えている。文末の表現は、改めて検討する。

委員：前回不参加で伝えたい部分に関しては事務局に電話で伝えたため、全体的に異論はない。最終まとめ案には記載していない内容でも、これまでの構想会議で議論してきた内容は重要であると考えている。今後このまとめ案を読む際には議事録も参考にしてほしい。

6頁の通信環境の整備については、重要な項目であると捉えている。特に多人数の接続でも安定した通信環境の整備は必須であると考えている。教育実習に行った学生から、隣のクラスがタブレットを利用している際に同時に利用できないといったことがあると聞いている。また、50代以上の先生がタブレット利用に前向きではないということも伺っており、整備したものは活かしてほしい。

2つ目として、13頁の快適な学習空間に記載するのが適切であるかは事務局で検討してほしいが、現地以外への建替えとなった際に、通学路や周辺の交通安全も見直して行く必要があると思う。アンケートでも同様の意見があり、自転車通学の是非も検討が必要かと思う。

3つ目は、安全安心な施設環境の確保の項目で、学校が避難所となった際に、初期段階では先生が避難者の対応をしていくが、長期間となった場合に学校単独で継続していくことが難しい。周囲の拠点施設との連携も考えていく必要がある。また、先生も避難が落ち着いてきたあとで、本来の生徒対応に移行できれば良い。

会長：通学路についてはこれまでの会議で特に議論してない項目である。最終まとめへの記載を行うか、議事録への記載とするか確認したい。

事務局：小中学校の通学路点検は毎年実施している。危険な部分については改善対応している。建設地がどこであっても生徒の安全確保は重要であるため建設地が決定した時点で検討を行う。

教育長：通学路や避難所は学校だけで対応するのではなく、地域との連携が必要な項目という面で共通点がある、ぜひ取り組んでいく必要がある課題だと認識している。通学路は保護者や地域住民と連携し、建設地決定後に議論し

なくていけないと考えている。避難所についても生涯学習施設、愛知県の広域防災拠点との連携や訓練などを行っていく必要がある。また、既存小学校体育館との連携も含め、町全体で検討していく課題と捉えている。

委員：比較表の各候補地で、候補地2では液状化の可能性があると記載があり、候補地3では浸水が最大3mと記載されている。こういった内容がある場合、避難所や学校として使うのは問題がないか。

事務局：候補地3の0.5～3mの浸水については、他の行政でも同じであるが、避難所の面では扱いが難しい。液状化については中程度であれば工法により対応が可能である。

会長：木曾三川周辺の学校も3mの浸水が見込まれる地域であり、体育館を2階に設け、避難所として機能するようにしている。候補地3とする場合は同様に何かしらの対策を取らねばならない。

本日の指摘事項は大きな修正がなかったため、私が事務局とやり取りを行い、確認する流れで良いか。

委員：（異議なし同意）

会長：では、事務局が修正したものを私が確認し、最終まとめとする。

【（3）その他】

委員：構想会議は今回で終了となるが、今後豊山中学校の建設事業をどのように進めていくのか。

教育長：皆様に議論いただいた最終まとめは今後公表し、その後より具体的な計画とするための準備を進めたいと考えている。検討が必要な敷地や事業手法等データをもとに適切な判断をしていきたい。構想会議はこれで終了となるが今後のステップでも皆様の知見と専門的なご意見を参考にしたいと考えているため、これからもご協力いただきたい。

会長：最終まとめの内容は、教育環境がどうあるべきか、地域コミュニティ、安心安全な施設等幅広く取り上げることができ、良いものとなったと考えている。建設地が決定していないゆえに詳細検討ができていない部分もあるが、これをベースとして今後の検討につなげてほしい。

上記のとおり第8回豊山町中学校施設整備基本構想会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び出席者1人が署名する。

令和4年 8月 1日

会 長 鈴 木 賢 一

署名人 水 野 晃